

## ロングセラー商品に学ぶ、ビジネスの勘所(第6回)

### オフィスを飛び出したマックスのホッチキス

2019.05.28



書類をとじるとき、マックスのホッチキスを愛用しているビジネスパーソンは少なくないことでしょう。同社は、国内シェアの75%を持つホッチキスのトップメーカーです。同社のホッチキスは、1946年の発売以来、半世紀以上にわたって愛されているロングセラー商品になっています。

マックスの創業は、1942年。当時の社名は山田航空工業で、零式艦上戦闘機の尾翼部品の製造から事業をスタートしました。終戦を迎えると「平和産業に徹し、文化に貢献する」との理念を掲げて山田興業へと社名変更。戦闘機部品の製造で培ったプレス技術を生かし、1946年からホッチキスの製造を開始します。

当時は、いくつものメーカーがホッチキスを手掛けていました。そうした中でマックスを確固たる存在にしたのが、1952年7月に発売した、ハンディータイプの小型ホッチキス「SYC・10」でした。それまでのホッチキスは紙綴器などとも呼ばれ、机の上に置いて手のひらでレバーを押して使う卓上型でした。大きく重量があり、値段も高く、オフィスで1台購入して共同で使うのが一般的でした。

「とじるだけの機能に徹し、部品点数を最小限にし、低コストに抑える」をコンセプトに開発された「SYC・10」は、そうしたホッチキスの常識を覆しました。部品点数は8点のみ。手のひらで握る小型サイズで、重さも軽量です。指先の力だけでとじることができるため使いやすく、価格は従来のホッチキスの半値以下という、まさに画期的な商品でした。「SYC・10」によって、オフィスに1台の事務機器だったホッチキスは1人1台の文房具となり、さらに家庭にも普及していきます。

新幹線で見えた光景が開発のヒントに … 続きを読む